文京学院大学　2023 年度入学式
2023 年 4 月 2 日　東京ドームシティホールにて

学長告辞

新たな緑が芽吹き、晴れやかな新年度に相応しい季節となりました。本日、文京学院大学入学式を迎えられた新入生の皆様、ご家族の皆様、ご入学誠におめでとうございます。入学までの新入生の方々のご努力、またそれを支えてこられた皆様にも心よりお祝いを申し上げます。ここに教職員・在学生一同、皆様を歓迎申し上げます。またロシア政府のウクライナ侵攻に抗議し、早い平和的解決を望む本学として、駐日ウクライナ特命全権大使　コルスンスキー・セルギー閣下にもお越し頂くことができたことは大変光栄に感じております。

皆さんの高校時代は、新型コロナウイルスに翻弄された 3 年間で、思い通りにならなかったこともあったかもしれません。本学もこの 3 年間、学生の安全を考え、毎週のように、コロナ対策会議を開き、何が学生の教育に必要なことなのか深く考えさせられた 3 年間でした。皆さんはそのような経験を経て、どのような思いで本学に入学されたのでしょうか。これから始まる大学あるいは大学院生活に少しの不安と大きな期待を抱いておられると思います。

私は、皆さんには大いに成長いただきたいと願うのでありますが、皆さんの成長に必要なことの中に「自分自身を知る」ということがあります。特に自分を客観視する能力です。例えば「今」皆さんが私のこの話をどのように聞いていらっしゃるか意識することもそれにあたります。

意識は決断につながります。皆さんは今日朝起きるときに、小さい決断をしました。起きるという決断です。そして朝ごはんを食べる決断というように小さな、小さな決断を何億回も繰り返して今ここにいらっしゃいます。人は一日に 3 万回以上の決断をしているという報告もあります。進学の決断のような大きい決断は、なかなか難しいことです。したがって、本学の入学を決断した皆さんを私は心より歓迎してその成功を願うものであります。

1 日の中で気持ちが上がったり、あるいは下がったりするときもあると思いますが、そういう自分を認識することができると自分自身のことがわかり、また自分をコントロールすることができやすくなります。この決断の積み重ねは成長となり、大きな決断も徐々にできるようになります。私はそのために最も必要なことが「経験」だ

と考えています。皆さんは高校生までに培った様々な経験を通じて、様々な決断をされてきました。良い決断をするためには多くの体験をすることが大事です。特に、今までしたことのないことにチャレンジすることを、是非今後して欲しいと思います。体験してみると当然失敗することもありますが、失敗することでわかることが沢山あります。体験を積み、決断を下すことができるような人になって頂きたいと強く願います。決断を繰り返し、自分自身を作り上げる姿の集大成が「自立」です。自立は従属から独り立ちをする過程であると同時に、自分の立ち位置がどこにあるのかを知ることができている状態です。自分自身の認識を客観的に認知することをメタ認知と呼びますが、他者との違いを認識することで自分の立ち位置を理解しやすくなります。人は自立することが大切であり、文京学院の創立者　島田依史子先生の強い思いでもありました。

大学生活ではもちろん授業も大切ですが、初めての体験をどんどんして欲しいと思っています。例えば海外に行くことや海外で生活する体験は客観的に自分をあるいは日本という国を見ることを助けます。また一人旅をしたことが無い方にはそれも是非お勧めします。自分とは全く異なる考え方や物事を受け入れることで入れ物が大きくなります。私は数年前にカナダでバスに乗っているときに運転手さんがバナナの皮をむきながら運転しているのをみて、少し驚きましたが、これがカナダだと受入れました。また大学時代に人の中で体験をすることは、「自分を知る」というメタ認知を高めることにつながります。家族や友人、先輩、後輩、先生、職員の間でメタ認知が育まれるのです。多くの人と体験をすることで自分との違いにも気づき、違う考えの人を受け入れることで自分の入れ物も大きくなります。今まで自分では受け入れることが難しかった友人にはなり得なかった友人も入れ物の変化で受け入れることができるようになるのです。もし皆さんがどなたか難しくて受け入れることができないことがあったとしても、皆さんが大きくなればいいのです。自分とは違う考え、行動、感情、そして環境や社会を受け入れることを「共生」と呼びます。一緒に生きていくことですね。自分の内側からその自分の価値観を相対化して入れ物を大きくすることでもあります。共生は同じく創立者島田依史子先生の強い思いでもありました。このように自立すること、共生することは人としてとても重要な課題です。

さて、私立大学には、どのような人間を育成するかについて定めた言葉があります。それを、「建学の精神」と呼びますが、文京学院大学の建学の精神は「自立と共生」です。素敵な言葉ですね。本学院創設は大正 13 年（1924 年）で、今年は 99 年目、来年度は創立 100 周年となります。つまり、ほぼ 100 年前に、創立者はこの「自立と共生」という建学の精神に強い思いを込めたのです。

本日お配りした、学規は、2代目理事長であった、島田和幸先生が心底敬慕されていた早稲田大学教授で、和歌や書家としても著名な会津八一先生の筆によるものであります。現在の理事長・学院長　島田昌和先生からの言葉とともに皆さんにお配りしました。　「ふかくこの生を愛すべし、かへりみて己を知るべし、学芸を以て性を養うべし」とありますが、私自身は最後に書かれた「日々新面目あるべし」という言葉がとても印象深く刻まれています。皆さんは、これから毎年経験を増やしますが年齢も重ねます。経験は蓄積されますので未経験のことが減るとも考えられます。年齢を重ねると時間が早く過ぎると言われているのは、未経験事象が減るからかもしれません。毎日新しい自分を作り上げ、4年後あるいは2年後には格段に進歩したご自身と出会って欲しいと強く願っています。

自立すること、共生することは人との関係で育まれます。そして、皆さんにとっての自立と共生に根ざした、大学生活4年間あるいは大学院生活2年間は、今日から始まる「物語」なのです。若い皆さんが卒業する時には、これらの能力を身につけ、どんどん自分を変化させて、素晴らしい人になって欲しいと強く願っています。そしてそれは、皆さんの思いと決意次第で実現することが可能です。今、自分に点数が付けられなかったことがあったとしても、それはプラスにすれば良いだけです。体験を通じて自分自身の成長を作る皆さんの物語が今日から始まるのです。そして主人公は皆さんひとりひとりなのです。大学の教員、職員は皆さんの物語を支えるために全力を尽くしています。大学では「学生第一」に、皆さんの自立と共生を実現するために、全力を使います。新しい自分を作るために、楽しく充実した大学生活を送ってくださるよう心より祈念致します。すでに巣立った多くの先輩は社会でさまざまな活躍をしています。新入生の皆様も自立し、いろいろな人や環境と共生した素晴らしい4年間あるいは2年間になるよう、私たち教職員は全力でサポートしてまいります。

最後に、改めて新入生の皆様のご入学を心から祝福申し上げます。

本日はまことにおめでとうございます。

2023年4月2日
文京学院大学
学長 福井　勉